

公益社団法人 日本天文学会 代議員総会議事録

日時： 2022年9月14日（水）11時40分～13時00分

場所： 新潟大学（ハイブリッド開催）

出席代議員：須藤*、本間*、相川*、大須賀*、浅井*、大向、秋山*、大朝、（津村*）、吉田*、米徳*、太田、藤沢*、江草、福江*、赤堀*、細川*、今井、山崎（了）*、犬塚*、野村、（谷口*）、（河野）、山崎（典子）*、土居、小林*、井岡*、林*、石川*、藤井*、百瀬*、高橋*、井上*、富田*、富永、長尾*、当真*、横山*、川端*（以上39名（うち*を付けた30名がオンライン出席、また（）で記名した3名が遅刻しての出席、委任状5通）

欠席代議員：奥村、田中、稲見、柏川、生田

花岡監事、古澤年会実行理事、山本会長、久保田副会長、町田庶務理事、鈴木庶務理事、酒向会計理事、鹿野会計理事、佐藤事務長、黒岩・田口谷事務長補佐が出席した。太田副会長は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席代議員が36名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議長：山本 智

署名人：山本 智

II. 報告

II-1. 理事会（2022年9月13日）の報告（町田、資料なし）

前日に開催された理事会における(i)インターネット天文学辞典編集委員の1名増員の承認、(ii)COVID-19後の天文月報の記事のweb公開方針の検討の継続、(iii)天文教育委員会からの報告、(iv)PASJ編集委員会からの報告の各内容が報告された。

II-2. 学術会議・IAU分科会報告（浅井、画面共有資料のみ）

これらの組織の概要の説明の後に、日本学術会議 天文学・宇宙物理学分科会の直近の主な活動内容として、(i)7/22に「未来の学術振興構想」のコミュニティ向け説明を行ったこと、(ii)大型中型将来計画の冊子策定についての取りまとめを行っていること、が説明された。(ii)に関しては、9/30まで各分野コミュニティからの推薦の修正を受け付けている。その他の詳細は9/16の天文学会会員向け報告会で説明予定である。IAU分科会に関しIAUサイエンスセッションでの活動進捗状況が報告された。またIAU会員の募集が10/7-12/15に行われる予定である。

II-3. 開催中の2022年秋季年会の開催状況と、今後のハイブリッド・オンライン開催について（古澤、山本、画面共有資料のみ）

(i)現地参加509名、オンライン参加549名であること、(ii)今回より、全参加者から参加費を徴収したこと、(iii)現地参加者数の抑制の観点から、講演者と視聴者を差別化はせずにオンライン参加への協力の呼びかけを行った事、(iv)COVID-19の状況から、当初予定してい

なかったほぼフル規格のハイブリッド方式となったが、今後解決していくべき諸問題(9/13 理事会議事録も参照)があることが報告された。(iv)に関して代議員から、ここまでハイブリッド開催について大きな問題はなく順調と見受けられるが、発生した問題があれば教えて欲しいとの質問があり、Zoom の一時的な切断や、プログラムのスケジュールの遅延が見受けられたが、全て解決するためにより入念な準備が必要であるとの回答がなされた。関連して、ハイブリッド開催のための人員の補充を行っていないこともあり、一部の担当者に大きな負担が掛かっているという問題があることが報告された。また今後のために、参加者アンケートによる調査を行う予定である。他の観点として代議員から、今回はポスターがオンライン主体となったが、今後は参加者の交流のために、対面方式の併用も考慮して欲しいとの意見が出された。

II-4. 年会ハイブリッド化タスクフォース報告(太田、画面共有資料のみ)

COVID-19 終息後のハイブリッド開催の運営に関して、(i)現地開催とフルオンラインの交互開催、(ii)ハイブリッド開催の開催方法として、タイプ1: 講演は現地のみでオンラインは視聴のみ、タイプ2: 講演は現地のみだがオンラインからの質疑も可能とする、タイプ3: オンライン講演も可能、といった方式を検討し、その方式を選択するかは各開催地にゆだねるのか、或いは学会として統一しておくのかは検討課題であること、(iii)講演の録画及び、年会終了後の視聴をオプションとする、など様々な可能性を検討していることが報告された。今後会員の意見分布を調査する予定である。代議員から、(i)今回は現地発表で自前のパソコンを用いた発表を認めていないが、講演品質の向上の観点から自身のパソコンによる発表も認めて欲しい、(ii)オンラインから自分のカメラを使用が許可できないセッションがあったが、カメラの使用を許可しかつ推奨するのが良いとの意見が挙げられた。他に、開催地の負担の軽減の観点からのハイブリッド開催の現地参加とオンライン参加の割合の決定に関する質問があり、タスクフォースでは現地参加を主体として検討しているとの回答があった。

III. 意見交換: 今後の年会開催地と、COVID-19 状況下での開催方針について(町田、山本)

2023 年秋季年会(名古屋大学)まで決定したが、2024 年春季以降は未定である。今後も暫くは COVID-19 等の影響から、開催方式の決定が事前になる可能性が高いが各機関には積極的な協力をお願いしたい。代議員からは、各機関の使用料が高騰しているとの問題点が挙げられ、自治体から補助を受けられる場合もあるので調査が必要であるとの意見が出された。

[資料リスト]

資料1 代議員総会出欠席表

資料2 公益社団法人日本天文学会代議員総会議事録案

2022 年 9 月 14 日

議長・署名人： 山 本 智 印